

タッピーねっと通信

vol.2

〈札幌市東区東部地区在宅医療連携協議会〉

発行先:札幌市東区東部地区在宅医療連携協議会 事務局:医療法人社団 豊生会 東苗穂病院



ごあいさつ

【星野代表あいさつ】

医療・介護・福祉のみんながネットワークでタッグを組むと言うのは、我々にとってもとても有意義な事であると同時に、何よりもこの地域に住んでいる患者さんご利用者さんにとっての安心・安全が守られる事だと思います。これからも住み慣れた地域の暮らしに根付き、顔の向こうが見えるような有意義な時間にしましょう。

【兼重副代表あいさつ】

タッピーねっとはモデル事業なので、果敢にチャレンジする事が大切じゃないかと思います。失敗も成功も先に繋がる価値のある事だと思います。皆さんの専門性・知識や経験を結集して、困難を共有し・ハードとソフト・人と人との繋がりを大切にして新しいシステムを構築して行きましょう。

基調講演

札幌市西区 坂本医院院長 坂本仁先生より

「医療と介護の連携について—ぐるぐる図をもとに地域連携を考える—」と題して基調講演をいただきました。

日本の現在の状況として、病院で亡くなる方が大半を占め、さらに団塊の世代の高齢化に伴い、死亡数も現在の120万人から30~40年後には166万人になると推測され、その看取り先の確保が困難とされています。中央社会保険医療協議会でも医療と介護の連携について情報共有の必要性を強調、厚労省は、医療・介護サービスのネットワーク構築の手段として、在宅医療連携拠点事業の多職種協同による在宅医療連携体制の推進を提言し、これがタッピーねっととなっています。医療と介護・福祉の連携の課題として「顔が見え、理解し合える関係をつくること」などがあげられ、その「場」こそこのような会議であると思います。

西区では、地域ネットワーク形成を目標に、15年前から在宅ケア連絡会を立ち上げ、医療・保健・福祉の三者が集まり会議を行っています。平成9年8月から24年10月まで165回開催、その中で急性期医療→回復期

リハビリ→慢性期医療・介護保険施設または在宅療養をぐるぐる回るとよいとする「ぐるぐる図」が完成し、厚労省の「脳卒中の場合の医療連携体制のイメージ」にも採用されました。



坂本医院院長 坂本 仁先生

東区でも三木先生が「東区立体ぐるぐる図」を作成しました。東区在宅療養協議会の基盤として活用し、地域包括支援センターなどと協働して、この拠点事業を展開してほしいと思います。「すべては人と人のつながりから」。東区の皆さんもぜひ良い状況を作り出してください。



災害対応説明

「タッピーねっと」における災害対応について

■東区の自然災害の概要

【地震】札幌市は、「月寒断層」による地震災害が最も大きいと想定されています。震源に近い東区では、ほぼ全域で震度6以上、一部震度7の激しい揺れとなることが予測されています。

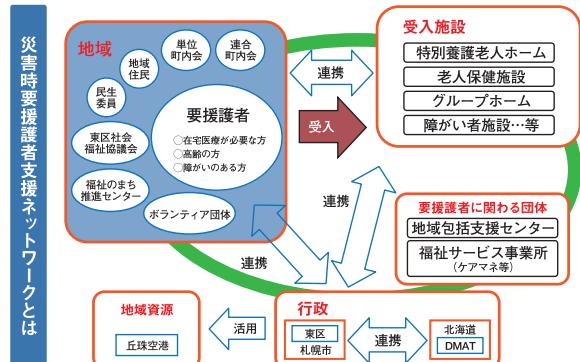
【水害】東区は、豊平川、石狩川の河川に挟まれた低地であり、これまででも洪水による、床上浸水等の被害が生じています。現在、国交省と札幌市が共同で東区東雁来に「豊平川河川防災ステーション」の整備を進めており、来年全面供用の予定です。

■「タッピーねっと」における災害時対応の考え方

(1) 災害時対応に当たっては、平時から行政(札幌市・東区役所・東消防署・北海道・等)と緊密に連携し、情報を共有し進めます。

(2) 地域住民や医療・福祉施設の参加による災害時対応についての啓発活動を推進します。

(3) 東区役所が先進的に進めている「東区災害時要援護者支援ネットワーク事業(災害時に在宅や通常の避難場所で避難生活を送ることが困難な方を、福祉施設等に一時的に収容する等)」に協力していきます。



事務局報告

タッピーねっとは、地域の医療と介護の連携を強め、顔の見える信頼できる関係構築の場として利用して頂くことが役割です。地域の医療・介護職の皆さん、どのように地域連携を捉え、課題として感じているのかを知る目的で第1回合同会議後にアンケートを実施いたしました。その結果から見えてきたものは、医療と介護の連携は必要と考えているが、連携の実態に関しては、不十分を感じていると言うことです。連携が難しいと感じる理由は、医療系・介護系職種ともに「誰と連絡を取ればよいかわからない」ことであり、窓口の明確化を求めている事がうかがえます。介護保険・医療保険の制度自体の知識が不足しており、何を伝えて良いかわからない、お互いの制度や情報を知らないためにスムーズな連携をとる上で壁となっている状況が見えてきました。「多忙で連絡が取れない」と答えていている方も多く、医療介護両職種とも日々業務に追われていると思われます。介護系職種からは、医療に対して「敷居が高く連絡を取りづらい」も21%に上り、病院や医師に対しては遠慮している部分も見られました。この結果を参考にして、今後のタッピーねっとの活動に生かしていきたいと思います。

グループワーク紹介

札幌佐藤病院精神保健福祉士 宮本さんから64歳女性「レビー小体認知症」のAさんについての事例が紹介されました。

【事例】

Aさんは独居のため同じ区内に住んでいる息子の支援や介護サービス(デイサービス・ヘルパー)を利用しながら生活していました。幻覚があり不安が強いため佐藤病院に入院。入院1カ月後、幻覚症状が改善したことから退院後の生活について検討が行われました。息子は混乱した際にも対応してもらえる高齢者住宅を希望しましたが、本人は自宅での生活を希望。夜間一人で暮らせるのかを確認するため2泊3日の外泊を試みた結果、幻視なく一人でいる不安も少なく自信を持つことができました。

【グループワーク】

あなたは支援者としてAさんをどう支援したいか、その生活を実現するためにはどうしたらよいか、という内容で12グループに分かれ検討が行われました。

【グループからの報告】

私たちのグループでは、まず、ご本人の意向を重視し自宅退院を想定して検討しました。入院前にヘルパーを嫌がっていた理由は何なのか、本人と一緒にやることで納得されるのではないか。現在の状態を維持するために確実に内服ができる方法を考えなければならない。介護サービスだけではなく民生委員やボランティアなどのインフォーマルなサービスの活用も検討したほうが良い、など活発な意見が出されました。グループメンバーは、保健師や看護師だけではなくMSW・ケアマネ・病院職員などで多角的な支援の方向で意見が出されました。アンケートからも他職種の意見が聞けて有意義だったとの声もいただきました。

告知

次回は、平成24年12月13日(木)午後6時30分から、伏古記念会館で開催を予定しています。

機関登録を受け付けています。ご希望の方は下記まで、お問い合わせ下さい

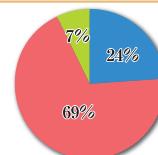
メーリングリストのお申し込みは、info@tappynet.jpまで

事務局

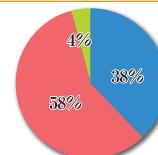
タッピーねっと(札幌市東区東部地区在宅医療連携協議会)事務局
住所 札幌市東区東苗穂3条1丁目2-18(東苗穂病院内)

アンケート

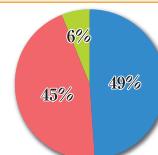
質問1 タッピーねっとにおける災害対応について参考になりましたか?



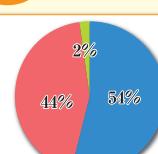
質問2 基調講演「ぐるぐる図をもとに地域連携を考える」は参考になりましたか?



質問3 事例発表とグループワークは今後の業務に役に立ちそうですか?



質問4 今後も参加したいと思いますか?



【合同会議についての感想】

- グループワークで他職種の方々からの意見を聞いて新しい発見もできてとても勉強になった。
- 普段はお会いできない方々と会うだけではなく意見交換もできとても良い時間でした。
- グループワークでグループ毎や職種毎での視点の違いや結果は似てもプロセスに違いあることに気付きました。
- 実際に現場で働いている方の話を聞くことで、理解出来なかったことや専門者側からの考えがそれぞれあり発見につながりました。
- 色々な職種の方と交流をもてる場なので参加でき良かったです。
- 事例を考える中で、連携の大切さをより思う機会となりました。

【今後の活動に期待すること】

- 地域と共に体制づくりが進んでいくことを期待しています。
- 地域住民向け事業を企画してください。
- 行政(市や区の担当者)側へのアプローチでどんな工夫をしたらよいか、お知恵をさづけていただければ、ありがとうございます。
- 災害対応にいたってはより具体的な対応策等についての情報を提供していただきたい。